「忘れられない」「懐かしい」
和やかにホームカミングデー

「やっぱり母校はいい」。11月5日のホームカミングデーでは、卒業生がゼミやサークルの仲間と参加する姿が目立った。

在学中、観光事業研究同好会に所属したという髙橋義幸さん(昭56商)、矢島裕巳さん（同）、大和田寛さん（昭56法）、笹川哲也さん（昭57商）の4人。髙橋さん以外の3人は卒業以来三十数年ぶりの生田キャンパス訪問。「在学時、9号館はグラウンドだったはず」と生田キャンパスの変化に驚いていた。

4人は午前中イベントや鳳祭を楽しみ、昼は9号館アトリウムでのビアパブでくつろぎ懇談した。「数年前から頻繁に会うようになりました。大学のサークル仲間は特別です」と言うのは笹川さん。在学中の思い出の写真集を持参した。

髙橋さんは「黒田選手の写真展に感動した。我々の時代はこぞって神宮球場に応援に行った。もっとスポーツで活躍する専大になってほしい」と注文した。

また、仲間とともに鳳祭の模擬店を回っていた渡邉道子さん（昭46文）は「4号館の方まで来たのは久しぶり。懐かしい」とほほ笑みながら文学部のシンボルとなっているケヤキの木を眺めた。ホームカミングデーの会場では専大の応援グッズや文房具などを大量に買い、「これからも専大を応援します」。

小園邦春さん（昭39経済）は新2・3号館建設など変わりゆくキャンパスに「よその大学に来ているみたいだ」と感慨深げに語った。

久しぶりのキャンパスを楽しむ左から大和田さん、笹川さん、髙橋さん、矢島さん

多額寄付の稲村さんに感謝状

教育研究充実のために多額の寄付をいただいた校友でアクタスアドバイザリー代表取締役の稲村榮典さん（昭46商）に10月26日、日髙義博理事長から感謝状が贈られた。

稲村さんは3年次在籍時に公認会計士第2次試験に合格。「専大に恩返しをしたいとずっと思っていた」と話す稲村さんは「会計士や税理士がもっと専大から出てきてほしい」と期待する。

稲村さん（中央）と日髙理事長、佐々木学長

後輩の活躍喜び
坂井・校友会顧問

10月26日、元評議員で校友会顧問の坂井寿憲さん（昭23専政）と次男で評議員の康成さん（昭58経営）、江原永一さん（昭44商）が神田キャンパスを訪れ、日髙理事長に寄付金を手渡した。日髙理事長、佐々木重人学長はじめ法人役員と懇談した坂井さんは「後輩が育ってどんどん活躍してくれるのが喜び」と語った。坂井さんは長年にわたりご寄付を続けており、2014年には専修大学特別功労賞を贈っている。

専大生を支えようと寄付される坂井さん(左)

五段の野澤さん 全日本杖道連覇

野澤草太さん（平20法・札幌市＝写真）が第43回全日本杖道大会（10月16日、岡山市）の五段の部で1位になり、連覇を達成した。野澤さんは「本当にうれしい。今後も鍛錬を重ねていきたい」と喜びを語った。

専修大学杖道会出身の野澤さんは杖道歴約12年。現在は札幌市の北杖会に所属しており、今大会では伊藤稔さんと組んだ。本学卒業後も専大杖道会の夏合宿などに参加、後輩の指導に尽力している。

杖道は長さ約128㌢の丸い樫の杖を用いて、打つ、突く、払う「形の武道」。技は12種。試合では2組が紅白に分かれ、演武して競う。

70人が熱戦
校友会ゴルフ

第32回校友会グリーンカップゴルフ大会が10月21日、山梨県「上野原カントリークラブ」で開催された。約70人が参加し＝写真、熱戦が繰り広げられた。

結果は次の通り。

▽個人優勝＝柏木龍一氏（昭49経営）▽ベストグロス賞＝木村均氏（昭47商）▽シニア優勝＝谷田部輝雄氏（昭44商）▽団体優勝＝ボクシング部

校友会からのお知らせ

〈沖縄県支部総会〉
▽11月17日（木）18時30分～▽ゆいレール旭橋駅から徒歩15分「パシフィックホテル沖縄」問兼島力氏☎090・3794・1910

〈山口支部総会〉
▽11月18日（金）18時30分～▽JR湯田温泉駅から徒歩10分「ホテルかめ福」問光地貢氏☎090・7542・9457

〈佐賀鳳会総会〉
▽11月19日（土）18時～▽JR佐賀駅から徒歩15分「料理屋きりん」問山口朋宏氏☎090・8295・0317

〈杉並支部総会〉
▽11月20日（日）正午～▽JR阿佐ケ谷駅から徒歩1分「中国料理翠海」問木梨盛祥氏☎03・3304・9321

〈神奈川県連合会総会〉
▽11月26日（土）17時～▽みなとみらい線日本大通り駅から徒歩2分「ロイヤルホールヨコハマ」問神奈川県連事務局☎045・662・4390（はまかぜ新聞社内）

〈いわき黒門会総会〉
▽11月26日（土）19時～▽JRいわき駅から徒歩3分「海鮮四季工房きむらやいわき店」問吉村昭一郎氏☎090・8257・3476

〈警視庁支部OB同窓会総会〉
▽12月1日（木）17時30分～▽神田キャンパス15階「報恩の間」問武田万年氏☎090・9389・6062

募金局からのお願い

専修大学は2019年に創立140年を迎えます。また、石巻専修大学も18年に創立30年を迎えます。学校法人専修大学では、さらなる飛躍と発展を期すため「専修大学創立140年・石巻専修大学創立30年記念事業募金」（募集期間５年間）を設け、広く募集を行っております。

併せて熊本地震で被災した専修大学及び石巻専修大学に在籍する学生に対し、奨学金及び生活支援金等として「被災学生支援金」も募集しております。

皆様方の温かいご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

お申し込み、お問い合わせは「専修大学募金局」（☎03・3265・3157）へお願い申し上げます。

専大校友を訪ねて

永谷園社長
飯塚（いいづか） 弦二朗（げんじろう）さん
（昭52経営）

ヒット商品「お茶漬け海苔」をはじめとする日本人の味覚やライフスタイルに合う即席食品を次々と打ち出している㈱永谷園（東京都港区）の社長に昨年4月、就任した。

同社はお茶漬けの素や即席みそ汁、ふりかけなどロングセラー商品にさらに改良を重ねているほか、最近は健康志向の商品やチルド商品などにも力を入れる。

「モットーは『味ひとすじ』。食生活の変化、お客様の嗜好の多様化に応じ、今後も安心できる、魅力ある商品づくりにチャレンジしていきたい」と意欲を燃やしている。

静岡市の出身。専修大学経営学部では管理会計の櫻井通晴（現名誉教授）ゼミに入った。

―「やり通す、やり直す勇気を」―

「箱根（神奈川県）でのゼミ合宿、他大学と合同の連合ゼミ連大会の参加のためゼミ仲間と徹夜作業で準備を行ったこと……。思い出は尽きません。櫻井先生からは向上心の大切さを学び、鍛えられました」また、「専大では全国から集まった大勢の学友と出会った。社会に出て必要な理解力や判断力は、恩師や大勢の仲間との交流で養われました」と振り返る。

1977年、「健康づくりの源である食の大切さから食品メーカーに魅力を感じて」永谷園に入社。営業畑一筋で歩んできた。

社長就任後も日本各地を飛び回り、新商品の魅力を伝える発表会に参加、取引先を訪問するなど販促活動の先頭に立つ。

趣味はベランダにある家庭菜園での野菜づくり。いつも冗談を飛ばし、周囲を笑わせる和やかな雰囲気の持ち主だ。好きなことばは「一期一会」。「出会った時がすべて。同じ巡り合いは二度とこない」ということを肝に銘じている。

「自分を直視する力と実行力を身につけてほしい。一度決めたらやり通す。それが間違っていたらやり直す。そんな勇気を持って」

穏やかな笑顔で後輩にメッセージを送った。

大学とハラスメント：そのヤヌス的な顔
―「謙虚な専大人」へのお誘い―

Stop Campus Harassment ハラスメントのないキャンパスへ

1991年、アメリカに衝撃が走る。Anita Hillという女性が、アメリカ連邦最高裁の判事として指名されたClarence Thomasからセクハラを受けたと、議会で証言したからである。社会の模範中の模範となるべき最高裁の候補者が皮肉にもセクハラで訴えられたという点で、この事件の衝撃は計り知れない。実際、ハラスメントに関する活発な議論はこの事件から始まったと言っても過言ではない。

この事件を受け、私の専門分野でも職場でのハラスメントは重要なテーマとなる。そして、多くの研究が、ハラスメントの根底には「パワー関係」が潜んでおり、ハラスメントとはパワーの「誤った行使・乱用」にほかならない点を突き止める。Anita事件の背後にも、パワー関係があった。Anitaは雇用の継続と昇進を望んでいたが、その望みは上司のClarence次第だった。そしてClarenceは謙虚ではなかった。彼は、自分のパワーを乱用し、性的な嫌がらせをやってしまったのである。このように考えると、ハラスメントを防ぐには、何より「謙虚さ」が必要であることに気づく。

理論上、大学はハラスメントとは無縁のはずだ。大学の重要な目的の一つが教養人の養成にあり、教養を身につけた人々が相手の人権を踏みにじるような行為をするはずがないからだ。しかし、大学は他のところに比べ、ハラスメントが起きやすいところでもある。なぜなら、「先生と学生」、「先輩と後輩」、「監督・コーチと選手」、「上司と部下」、「正規と非正規」等々、大学には多様なパワー関係が存在しているからだ。我々に、「謙虚さ」が強く求められている所以（ゆえん）である。

教員の皆さんは研究と教育に、学生の皆さんは学びと自分の成長に、体育会の皆さんは勝利に、職員の皆さんは専大への貢献に貪欲であってほしい。しかし、ハラスメントに関しては、どうか「謙虚な専大人」であってほしい。

（キャンパス・ハラスメント対策室員・蔡　芒錫）